

## 第1回奈良県・市町村長サミット

令和5年7月10日

### 【司会】

それでは、ただいまより令和5年度第1回奈良県・市町村長サミットを開会いたします。

私は本日司会を務めさせていただきます市町村振興課長今井でございます。よろしくお願ひいたします。本日は39の市町村から、市町村長の皆様、副市町村長の皆様のご出席をいただいております。ありがとうございます。開会にあたりまして、山下奈良県知事よりご挨拶を申し上げます。

### 【山下知事】

改めまして皆さんこんにちは。本日、令和5年度の第1回となります、奈良県・市町村長サミットを開催いたしましたところ、今回は39の市町村長様全員が出席をされるということで本当にこれまでに例のないぐらい、本当に今日のテーマに関心が高かったのではないかと思います。ただ、天川村長様が体調不良のため、急遽欠席となりましたけれども、代わりに副村長様に来ていただいております。本当に首長様および随員の職員の皆様のご出席、本当にありがとうございます。

さて、いよいよ再来年、大阪・関西万博が開催されます。本当に1970年以来、55年ぶりの我が国での万博開催でございます。これに対しましては、大阪・関西万博ですので、関西の一員である奈良県といたしましてもですね、もう全面的に協力をし、応援をし、そしてまた、大阪・関西万博に訪れた国内外のお客さんにですね、できれば奈良県にも足を運んでいただいて、奈良県の世界に冠たるこの歴史文化遺産をですね、体験していただきたいと思っております。

ただ、奈良県はこれまでですね、関西パビリオンという万博のパビリオンで個別展示ブースを設けないなど、あまり積極的だったとは言えないと私は考えております。急遽、奈良県もですね、この関西パビリオンで個別展示できないか、その可能性を探ったわけでございますけれども、もうすでに奈良県を除く、五つの府県で設計が進んでいるということで、もうちょっとこれ無理だということで、個別パビリオンの設置はちょっと断念いたしましたけれども、それ以外の場所ですね、奈良県のPRをしていきたいというふうに考えております。

あとで、急遽今日駆けつけてくださることになりました、河瀬直美映画監督からもお話をちょうだいしますけれども、河瀬監督がテーマ事業プロデューサーもしており、また河瀬監督がプロデュースするパビリオンもございますので、河瀬監督とも連携しながらですね、この奈良県のPRをこの大阪・関西万博で行って参りたいというふうに考えてございます。

で、本日講師を務めてくださいます、溝畑大阪観光局長はですね、後で詳しいご経歴のご紹介があるかと思いますが、もともとは自治官僚でございましたが、大分県庁に出向時代ですね、FIFAワールドカップの試合を誘致したり、立命館アジア太平洋大学の設立に尽力されたり、また、大分県のJリーグのチームの代表取締役を務めるなど、本当に官僚の世界とまた民間の世界と両方をご経験された上で、観光庁長官にも就任をされまして、本当に我が国の観光政策を引っ張ってこられた方でございます。今、ご案内のように大阪では大阪府と大阪市の観光部門の組織がですね、外出しをされて公益財団法人大阪観光局というのを作っておられます。まさに府市が、連携をしてですね、観光政策に取り組んでおられるわけでございますけれども、2年後の万博を見据えてですね、いろんな戦略を練られておるんだろうと推察を

しておるところです。その戦略の一端をですね、今日はお話していただきまして、我々奈良県そして奈良県の各市町村におかれましては、大阪・関西万博にこられる国内外のお客さんを、少しでも1人でも多く、奈良県に足を運んでいただきますように、あと開幕オープンまで2年足らずでございますけれども、この2年間の間にですね、しっかりと準備をしてですね、奈良県への観光客の誘致につなげていきたいと思っておりますので、また先生のお話の後、ご質問等もしていただきまして、2年後に向けて我々が戦略を練る、今日はキックオフの会にできればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いをいたします。ありがとうございました。

#### 【司会】

ありがとうございました。続きまして、市町村を代表して、市長会長の小紫生駒市長様、町村会長の西本安堵町長様よりご挨拶をいただきます。初めに小紫市長様よろしくお願いいたします。

#### 【小紫市長会長】

皆さん改めましてこんにちは。本日は、奈良県・市町村長サミットがここ桜井で開催されますこと、大変うれしく思っております。市長会長として、挨拶を一言申し上げます。

まずは、山下知事そして県の関係者の皆様におかれましては、新知事になられて早いタイミングで、この39市町村との学びの場、会合の場を持っていただいたことを感謝申し上げます。この市町村長サミットが新知事のもとで開催されるのか、またどのタイミングになるのかというのは、我々市町村長の一つの関心事でございましたけれども、6月議会が終わってすぐのタイミングで、このような機会を設けていただき、それもコロナ禍でしばらく開催されていなかった懇親会も併せて開催されるということで、胸襟を開いての意見交換ができる貴重な場だというふうに思っております。関係者の皆さんに改めて感謝申し上げます。

そして、今日のテーマが万博と観光ということでございます。この2025年の万博は、関西・万博でもありますけれども、3000万人とも言われる国内外からの万博への参加者が奈良県に訪れていただくということが、ある意味我々奈良県の首長からすると、万博の成功というものの一つのメルクマークというか、指標になるかと思っております。大阪だけなんか盛り上がってるということではなくて、そこに来られた方の全員は無理にしても、この一部、かなりの数が、この奈良県にも訪れてくれるということが、我々にとつての万博の成功の一つの指標ではないかと思っております。生駒市でも議論するんですけども、生駒市だけで何ができるのかっていうのはなかなか難しいねっていうような話にもなるところではございますので、奈良県そしてここにおられる39市町村が力を合わせて、大阪に来た3000万人の方に、どうにかして奈良県に来ていただく知恵を絞り、また具体化をしていく、今日は非常に大きなステップだと思っておりますので、皆様とともに学び、じゃあ具体的に次何しようかというようなことをしっかりと考える場にできればと思っております。このような機会をいただき本当にありがとうございました。よろしくお願いいたします。

#### 【司会】

ありがとうございました。続きまして、西本安堵町長様お願いいたします。

### 【西本町村会長】

安堵町長の西本でございます。小紫さんが大方おっしゃいましたので、あと何を言おうかなと考えているところでございます。まずは、私ども首長の一番の関心事、知事さんも代わられましたので、このサミットがどのようなものになるのか、また形が変わってくるのかなという思いが非常にございました。しかし、素早く、このようなサミット開いていただいたということは私どもも非常にうれしく思っているところでございます。

特に私ども町村は、奈良県の北の端から南の端まで、点在をしております。弱小でございますので、我々だけで何かできるかといえばそれは非常に難しいことでございます。まず、県、あるいは県知事さんに、我々に寄り添っていただいて、ご指導いただきながら、前を向いて行政を進めればと思っておりますので、よろしくお願いをしたいと思えます。

それと今日のこのテーマが観光あるいは万博ということでございます。奈良県といいますとどちらかといえば、古社寺が中心の今までの観光宣伝だったなあと私は思っております。それは致し方ないことでございますが、プラス、奈良県の魅力、古社寺以外の奈良県の魅力も併せて発信をしていただければ、今後の非常に持続性のある観光施策になるのではなかろうかと、このようにも思っているところでございます。

そういうことで、今日からまた、我々奈良県の自治体が観光を通じて、さらに活性化しますように、我々も期待し一生懸命汗をかきますので、よろしくお願いしたいと思います。はじめにあたりましての私の挨拶に代えさせていただきます。どうぞよろしくお願ひいたします。

### 【司会】

ありがとうございました。それでは次第の2になります、ご講演に移ります。本日は、大阪観光局理事長の溝畑宏様より、「大阪・関西万博を好機とした関西での観光振興について」をテーマにご講演いただきます。溝畑様のプロフィールについて改めまして、簡単ですがご紹介をさせていただきます。溝畑様は、東京大学法学部をご卒業後、自治省、現在の総務省に入省をされました。北海道庁や大分県庁などで、国と地方の両面から行政の仕事に携われ、その後、株式会社大分フットボールクラブ（大分トリニータ）代表取締役役に就任をされました。その後も、国土交通省観光庁長官、内閣官房参与、大阪府特別顧問などを経て、現在は大阪観光局理事長に就任をされています。観光立国と地方創生や、関西・大阪の活性化などをテーマにご講演でも活躍をさせていただきます。それでは、溝畑様、よろしくお願ひをいたします。

### 【溝畑理事長】

皆さんどうもこんにちは。今日知事を先頭に39の市町村長の皆さんにお集まりいただきまして、やはり奈良県の一体となった迫力に本当に感動いたしております。

私、生まれ育ちは京都で、奈良というのは、すぐ横というイメージございました。中学・高校が京都の洛星という学校に在学して、東大寺学園とよくつき合いがございましたので、よく奈良には遊びに行ったりしておりました。特に、吉野の桜は、日本で一番美しい桜ということで、うちの両親が好きでございまして、よく行かせていただきました。

また、中学・高校とずっと野球やっております、今でもプロ野球の始球式では120キロ投げている

す。私が中学の頃は、近鉄に入団した山口とか巨人に入団した鈴木康友が五條中学にいて、近畿大会で優勝するなど、めちゃくちゃ強かったことを覚えています。奈良は、高校野球が強いなど。当時、天理、智辯学園が強豪で、京都の高校野球のレベルを圧倒的に上回っていました。

奈良は、歴史・文化・伝統という分野では、日本を代表するエリアだと思っています。非常に高いポテンシャルを持っていて、先ほど、大阪・関西万博の話が出ましたけれども、大阪の万博で、世界にやらなくちゃいけないことは何かと言いますと、未来に向けて、空飛ぶ車とか、AI・IoT、或いはメタバース、こういうのもいいんですけども、やはり日本人の持つ温故知新とか伝統とか伝承とか、やはり持続可能というところを国としてしっかりと世界に発信する必要があります。今回参りましたのは、山下知事誕生で、吉村知事から2025年大阪・関西万博を見据え、大阪と奈良が連携して、関西エリアの観光の魅力、周遊性を高めるというミッションのもと、参ることになりました。

大阪は関西2府4県の真ん中であって、関西エリアをしっかりと周遊連携させるハブの役割を持つことは意識としては持っておりました。今回は明確に、具体的に連携していこうということを考えています。観光という世界にはユーザーの観点からみた場合、国境・県境はございません。ユーザーというのは、都市、都市をめぐっていくわけでありますから、今後、万博その先を見据えて、それぞれがWin-Winの関係になるよう、住んでよし・働いてよし・学んでよし・来てよし、そういう都市として魅力を高めることが観光のミッションであるというふうに思っています。私が観光庁長官になって、世界各国を回って印象に残ったのは、シンガポール政府の観光のトップが「観光は地域の総合的戦略産業である」という言い方をしたんですね。観光はその地域にあるものを掘り起こし、しっかりとこれに磨きをかけて、これを世界の評価に耐えうるものをつくっていく。その結果、世界から質の高いヒト・モノ・カネ・情報が集まる。雇用を創り、そして経済の効果を呼び、そして全体として都市の魅力を高めていく。観光というのは、都市政策でもあるし、或いは交通政策、文化政策、スポーツ政策、すべての政策を頭に入れながら、司令塔の役割をするものが観光政策なんです。私は観光庁長官時代に推進したかったプロジェクトが観光立国。観光というのはいろんな政策を、ヒト・モノ・カネ・情報が動く仕組みをしっかりとプロデュースするわけですね。観光やる人間は、地域住民の方を巻き込んで、都市の魅力を高めて、地域に経済効果をもたらすプロデューサーの役割が求められるわけです。

私、Jリーグの社長時代は、試合ごとにお客さん約3万人をすべて、お客さんの消費額、満足度などをチェックをして、次の試合に備えるわけですね。お客さんの声を聞いて運営をしっかりとやらないと、例えば観客が2万人以上入らなければ赤字になっちゃうんです。そんなことを繰り返しながら、経営・運営をやっている世界から、観光庁長官になって、まずびっくりしたのは、全然マーケティングとかデータ分析がされていないことでした。入込客数調査などからは、顧客の属性、満足度、消費額の客観的な分析は難しいです。私の中に、観光は量から質への転換をしなくちゃいけないなという意識を大変強く持っていました。今、日本の観光はイノベーションし改革し、いろんな人を巻き込んでやっていかないといけない世界だと思っています。ちなみにシンガポール政府観光局の幹部は、私初めて会ったときびっくりしました。組織のトップは元官僚、ナンバー2は映画監督、ナンバー3は現代アートのプロフェッショナル、ナンバー4が、いわゆる食のプロです。それぞれの専門家のプロで構成されていました。それを見たときにですね、私が長官で在任した観光庁、3年たったほどに職員がほとんど入れ替わり、プロが育たない体制でした。当時から大阪府市とは、松井知事、橋下市長と仕事において大変御世話になり、当時、大阪府市に大阪観光局を作ろうというふうに私なりに提案した理由というのは、人事異動でころころかわるん

じゃなくて、大阪に本格的な観光のプロ集団を作っていきたいです。できればスタッフは、将来3分の1は外国人、3分の1が民間で活躍している人をヘッドハンティングして、世界の国際観光都市に負けない観光のプロ集団をつくらうと。海外のグローバルな目線で見るときに、日本はこれだけ世界に誇れる質の高い観光資源があるのに、私はまだまだ活かしきれてない。2025年大阪・関西万博を目指して、皆さんと一緒に連携して、世界の国際観光都市に負けない観光戦略をつくり上げたいと思います。

今から7年ほど前に大阪観光局理事長として大阪に来ました時に目標として挙げましたが、世界最高水準、アジアナンバー1を目指そうという目標を掲げさせていただきました。やはり経営と一緒に。どういうふうな特色を出し、どういうふうなコンセプト・テーマで都市としての魅力を発信していくかということでございまして、P.1の8つの、正確に言いますと、下の方ですね、⑦、⑧は当時はおいておきませんでした。コロナの発生後にこれを入れました。順番にいきますと、①体験・感動、これは1500年の商業都市の歴史を踏まえ、食事、エンターテインメント、歴史、文化、スポーツ、様々なコンテンツを楽しむことができます。二つ目がですね、②元気・活力、そして三つ目が、③夢・希望。今から40年前、大阪のGDPは、日本の10分の1だったんです。私が分析した2014年は、日本の約7%でした。1人当たり県民所得は、かつて東京の10分の9だったのが、2014年は東京の3分の2です。明らかに経済的に低迷している。この夢・希望、元気・活力に込められた思いというのは、経済復活のため、将来、リスクがあってもチャレンジしていくような都市を目指していこうと。2025年大阪・関西万博誘致、G20誘致、IR立地などは反対意見が多い中、官民挙げて、チャレンジ精神、元気・活力、夢をもって取り組んできました。夢がないところには、ヒト・モノ・カネ・情報が集まりません。地域住民の皆様が共感、参加するような松明を掲げる必要があると思います。

それから④、⑤、⑥、⑦、⑧。この④多様性・共生・平等、もともとSDGsという概念が出る前から大阪は、年齢、性別、国籍や障害などを問わず、国内外の皆さんの受け入れをしていくベースがありました。⑤復活・対応力というのは、大阪はいかなる困難、例えば疫病、災害などに対して機動的、弾力的に対応していく。⑥ですね。安全・安心・清潔・防災。特にコロナ禍、私たちが加えたのは、この防災です。特にここ数年、ゲリラ豪雨、地震と災害が多発しています。今の日本の法律では、インバウンドのお客様に対して避難指示を出す権限が、都道府県知事、市町村長さんにはないんですね。従って、当時法律を作った時に想定していなかったインバウンド客をどのように防災という視点で守ってあげるか。これは重要な課題になると考えています。それからコロナ禍、重要な課題となってきたのが、この⑦分散ですね。

「密を避ける」ということから、休暇の分散、ワーケーション、移住などをこの分散という概念に考えております。また八つ目ですね。万博を開催するにあたって、ゼロカーボン、多様性を守る⑧環境・みどりというものの意識が高いというのは、これから国際都市として競争力を高めていく上では、これはマストだなということで、この⑧番も加えました。

次に大阪の世界の都市の中での立ち位置をしっかりと検証していこうと思っています。常にこういった海外の雑誌のですね、都市ランキングの何番にいるかということは常に意識をしています。例えば、エコノミスト誌では、世界第2位。また安全性指標では世界17位。アメリカの旅行雑誌では、世界第2位という評価が出てます。アジアナンバー1を目指そうとしたときに、都市として何が足りないかという時にですね、森記念財団の調査では、順番に経済・ビジネス、そして研究・開発、文化・交流は上位なんです。生活・居住それから環境などの分野は極めて低いレベルです。大阪の課題として、外国人の高度人材をどんどん招聘しようとする、大阪には住まなくて、大半が生駒、京都、それから芦屋、神戸に住

んでいます。その理由は、まず一つは居住環境です。それから教育環境。こういうところがまだまだ大阪は非常に他に比べて劣っています。特に景観とか街並みですね、これ非常に大事で、そういう意味からいきますと私はこの中で例えば今後ですよ、奈良がどういうポジションであるかってことをしっかりとこれで客観的評価をしていくっていうのも大事なかなと思います。大阪ではこのようにして、国内の評価、世界での評価ということを常に意識しています。

私がお阪に帰ってきた理由というのは、関西を復権させたいという思いです。自分が京都に育ち、東京一極集中をこれ以上進めちゃいかんという思いがあったの帰ってきました。なぜ大阪に来たかという、日本再生のためには大阪が元気になることの方がインパクト大きいなと思いました。また当時、大阪が、松井知事、橋下市長が本気になって、大阪から日本を変えようという活力を感じたので、大阪に行くことを決断しました。関西2府4県で、日本の国宝、重要文化財の約60%以上が、このエリアに集積しています。このエリアには、スポーツ、健康、文化、科学技術イノベーション、人材など、世界的に質の高いものがいっぱいあります。奈良にはすでに、三つ世界遺産もあるわけですし、東京には勝てるものがたくさんあります。東京は歴史で見ますと、400年か500年です。関西エリアでは約1500年の歴史があるわけですね。こういう歴史がある中で、長きにわたりたすき掛けされたものをしっかりと検証していくべきだと思います。

奈良も含めて大阪もそうなんですが、関西エリアは、大阪を中心に半径1時間以内にコンパクトに移動ができます。さらに半径2時間以内で考えると、瀬戸内から、山陰、山陽、北陸、中部にコンパクトに繋がっています。横の連携、移動が非常に容易であるということです。鉄道網も着実に大阪で、大阪の例を申し上げていきますけども、この大阪ベイエリア、さらに、なにわ筋線が開通いたしますと、関西から大阪の北梅田駅まで、約40分で直行できるというふうにアクセスが改善されます。関西、伊丹空港、神戸空港の3空港でありますけども、2019年、3空港で約5000万人を受け入れてます。一方で、世界の空港と比較すると、例えばインチョン空港、シンガポールのチャンギ空港は約7000万です。関西3つの空港を足してもチャンギ空港、インチョン空港の約7割しか受け入れできてないです。

また、東京の羽田、成田を加えますと約1億3000万です。ということは、関西3空港で羽田・成田の4割にもなってないという現実です。ということで、この関西3空港の機能強化ということにつきましては、先般懇談会におきまして、2030年前半を目処に、関西国際空港は発着枠数が23万回を30万回に増やすという方針が示されました。また神戸空港も2025年から国際チャーター便がOK、2030年ごろには、国際定期便の運航が可能になり、国内便の発着枠も1.5倍増えるということになります。できれば伊丹空港も運行時間の延長をはじめ、地元住民の皆様の同意を得ながら、もう少し拡充して欲しいのですが。この関西3空港機能強化は、2030年に大阪がアジアNo.1の国際観光文化都市になるには、着実に進めていかねばならないと思います。

大阪のGDPは、2013年38.0兆円であったのが、2019年には41.3兆円と3.3兆円増えてます。ちなみに、奈良県3.8兆円ですね。ほとんど横ばいです。大阪はこの6年間で8.7%増えました。東京が8.8%ですから、ほぼ今まで負け続けていた東京と伸び率が変わらなくなったということですね。奈良県の場合ですと、本当に伸びたと言っても1パーセントもいってないです。3.8が4ですから。実は、ここが大事なんですね。どれぐらいGDPは伸びてるか、まさに行政において、一つの重要な経営指標です。大阪は特にインバウンドでとにかく増やしていこうと。インバウンドで結果的にですね、この5年間で約1.6兆増えたんです。大阪のGDPのアップにインバウンドのアップがかなり寄与していると思っていま

す。今、観光業界は大変厳しい状況です。人手不足、コスト上昇、様々な課題があります。コロナの前からですね、観光業界が厳しいと思っているのは理由があります。観光業界の方の給料は、一次・二次・三次産業の平均のわずか3分の2なんです。非常に給与水準が安いんですね。給料が安くて上がらない職・仕事には優秀な人材は集まらないです。観光業界において、人材が減ってきてるとするのは、ここでイノベーション、改革をしないと、本当に優秀な人材はこない。私が言ってるような、やはりプロモーションやマーケティングや、しっかりやれるような業界にしていくためには、もう一度この生産性や収益性をしっかり高めなくちゃいけないと思ってます。わかりやすく言いますと、私がJリーグの時、例えば年俸300万円に入った優秀な選手が、例えば5年後、スペインに行くと給料100倍になりました。大谷翔平もそうですよね。年俸1000万円が始まり、今大リーグで約60億円の給与です。頑張ると結果を残せば、サラリーが上がる。そのように業界は変わらないとこの人手不足の問題は止まらないということになります。そのために、これから観光業界を量から質へ転換させる、富裕層対策を徹底させるなどの仕組みを作るのが必要です。

先ほどから申し上げておりますが、20年、21年、22年というのは、コロナにより人流、物流が制限され、本当に厳しい時期でした。23年反転攻勢がいよいよ始まったと思っております。インバウンドについては、中国を除いてほぼ8割、9割戻って参りました。今、円安の影響もありまして、特にアメリカ、カナダ、ヨーロッパがかなり戻ってきています。中国が今個人ビザはほぼ解禁されたんですけども、秋に団体旅行が戻れば、今までのよりもさらに上回る規模に回復するというふうに見えています。先日のダボス会議が発表した発表によりまして、外国人がどこに行きたいかっていうと、日本が世界第1位です。円安の影響もありますけども、やはり今非常に世界が、分断と対立で治安が悪いという中、やっぱり平和であるということも非常にプラス要因として働いていて、日本は世界一の人気があるということです。大阪は、2019年、約1200万人強であったインバウンドを2025年に1500万人に増やそうというような計画で進めています。先ほど山下知事からもお話がございましたが、今後の大きい展開の中でやはり、2025年の大阪・関西万博、日本初の本格的な公立大学である大阪公立大学が森之宮にオープンします。約3000人/1学年の定数の大学が大阪市の中心に戻ってきたのは、大きなインパクトがあると思っています。2030年にはI Rの開業を目指して準備をしています。そして、このI Rの横にあります万博の跡地もですね、今、新しいエンターテインメントの拠点を作ろうということで、大阪府市と協議をして進めさせていただいています。また、それに合わせまして、25年には淀屋橋の再開発、2030年には新大阪駅の再開発、こういったプロジェクトがどんどん進んでいきます。

私が大阪に来たときは、年表2020年以降ほとんど真っ白だったんです。2030年を見据えた年表を作って、この年表をみんなで埋めていこうと考えたんですね。インバウンドを増やし、どんどん海外に名前を売って、そして大阪の都市の魅力、観光戦略に貢献、インパクトのあるプロジェクトに積極的にチャレンジしていくプロセスで、G20、万博、I Rなどのプロジェクトが進展していったのです。奈良県で新しい知事が誕生されて、2023年を目標に、2030年、40年、奈良県はどんな姿になっていくのかという意味で、官民一体となって年表を埋めていくのが大事だと思います。このロードマップは単にイベントだけではなくて、インフラを含む、ホップ・ステップ・ジャンプというプロセスを踏んでいきたいと思っています。

私ども大阪観光局の最大のミッションは経済効果を最大化する。そしてコンセプトは、24時間観光都市。関西・西日本のハブ、多様性。活動目標は日本観光のショーケース。江戸時代、大阪は北前船、菱垣廻船により、日本の各地を船で回りながら、日本海を中心に、特産物を取り入れながら、それを大阪の市

場に持って行って皆さんに売っていたのです。その理念は、大阪から日本の各都市に送客、周遊のルートを整備することにより、日本の各都市を豊かにしたいということであったのです。私も週末はほとんど各都道府県を回っています。先週末は福島県田村市、前の週は島根県邑南町に行きました。その前の週は長野県山ノ内町に行きました。来週は徳之島に行きます。日本の各地域と連携することにより、テーマ別、ストーリー別に大阪を玄関口として送客、周遊する日本の観光のショーケースの形成は大阪のハブの機能を強化すると共に日本の観光立国にも大きく貢献できると思います。日本の観光のショーケースを形成するにあたり、奈良県さんとの連携は、世界水準の歴史、文化、伝統というコンテンツをお持ちで、様々な送客ルートができると思います。

大阪観光局は、日本の観光のトップランナー、プロ集団を目指しています。官民一体となった組織でありますが、継続的なプロ人材の採用、外国人スタッフの育成に取り組んでいて、今外国人のスタッフが5人います。また、広報、渉外、MICE、マーケティング、プロモーションなど、分野ごとのプロ人材を増やしていく方針です。

2023年目指すべき姿が、「Discover OSAKA」です。コロナ禍が明けて、国際競争に勝ち抜き、SDGsの推進により、新しい大阪を作っていこうというイメージです。基本的な方向性は、量から質、安心・安全、ストレスフリー、シームレス、オーバーツーリズム、災害・緊急時対応ということです。重点課題の一つ目の「大阪のSDGs」につきましては、後程申し上げます。重点課題の「日本の観光のショーケース」は、まず、大阪にある我々の資源をしっかりと掘り起こし、磨きをかけていきたいと思います。二つ目は広域連携です。テーマごとに結んでいこうということで、先日は別府に行き、別府市長と裸で温泉に入って、九州から北海道に温泉街道を作ろうと。温泉、アニメ、スポーツ、アドベンチャー、ウェルネス、忍者、侍、城郭など、様々な魅力があるいろんな街道を作りたい。訪日外国人観光客、国内観光客にテーマ別やストーリー別に長期周遊、滞在していただく仕組みをつくりたいと思います。

それから観光DXです。観光のデータベースを作っておりましたが、この7月に大阪観光アプリの稼働、Ma a Sの推進であるとか、そして関空調査などマーケティング調査の推進、将来的にAR、VR、メタバースの活用により、観光客が安心・安全、ストレスフリー、シームレスな環境をつくっていききたいと思います。

インバウンド促進は、水際対策が緩和され、インバウンドが復活しつつあり、新たに今まで十分にアプローチしていなかった中東のカタール、UAE、サウジアラビア、イスラエル、アゼルバイジャンなど、富裕層が多い国にどんどんプロモーションを展開しようと考えています。もしよろしければ、奈良県さんも一緒に渉外プロモーションを展開できればと思っています。

今後、インバウンドが復活して問題になるのが「オーバーツーリズム対策」です。例えば、治安・騒音の問題、防災、ゴミの問題、急患の問題が懸念されます。特に最近、公共交通機関で外国人観光客が大きな荷物を持って、地域住民に迷惑をかけることが増えています。運送会社と連携して、ホテルからホテル、駅から駅などに大型荷物を輸送する仕組みを作ろうというようなことも検討させていただいています。

奈良県のインバウンド観光客は、例えば2013年46万人が374万人、約8倍に増えてるわけです。全国は大体この2013年から6年間で平均約2.3倍ですから。私は奈良県のように豊富で質の高い観光資源があれば、374万人は1000万ぐらいあってもおかしくない数字だと思います。重要なのは、インバウンド観光客1人当たりの消費額です。2014年から2019年までの1人当たりのインバウンド消費額は約15万円で全国はほとんど変わらないのに対して、大阪は2014年1人当たり70,800円だったのが、2019年は

約 12 万円に増えました。なぜ、こんな増えたかです。

一つはですね、官民あげて宿泊施設を増やしました。いろいろ反対がありましたけど、合法民泊の推進です。結果、大阪は宿泊施設がホテル、民泊などにより、どこのエリアよりも質・量ともに充実しました。それ以外にも、古民家の活用、寺社仏閣の宿坊の活用なども積極的に行ってきました。

もう一つはですね、消費の時間軸を伸ばすことです。夜 8 時以降、インバウンド消費を増やすためにナイトタイムエコノミーにも力を入れました。夜、安心して遊んでいただけるようなコースを作るナイトタイムパスとかの商品も開発しました。こういうことをマーケティングとデータリサーチを行いながら、各種施策を行ってきました。

観光は、地域固有の魅力、資源を掘り起こし、磨き、国内外からヒト・モノ・カネ・情報を集積させる「地域の総合的戦略産業」である。まさに、地域の経済政策、都市政策、交通政策、文化・スポーツ政策などの司令塔としての役割が求められます。これからは、経済効果を意識した「量から質への転換」が求められます。「量から質への転換」で重要になるのが、データ収集、分析、マーケティングの強化です。インバウンド消費については、既に観光データベースの構築、閑空調査、カード会社との連携などにより推進してきましたし、国内観光については「大阪いらっしやいキャンペーン」などにより、国内観光客の消費単価などにより、かなりのデータ集積ができました。今後、これらのデータの活用、マーケティングについては、ぜひ奈良県の皆様と一緒に展開できればと思います。

次に、観光DXの「大阪観光アプリ」について説明します。これは、ONE 決済、ONE 認証で観光体験、宿泊、飲食等の予約機能や観光情報紹介機能などがあります。また、アプリによる顧客のデータは、今後のマーケティング、プロモーションにも有効活用できます。

日本、特に大阪の世界水準の重要な観光資源が「食」です。インバウンドで観光客が、日本で最も楽しみにしているのが食です。また、J N T O の調査によれば、外国人が好きな料理の 1 番が日本料理です。海外の日本食レストランの数、2013 年 5 万 5000 店であったのが、2019 年は 16 万店舗、約 3 倍に増えました。大阪の食を海外に展開することにより、世界における大阪の食の認知度を高め、結果として大阪への集客につながるようになります。また日本は、飲食について消費単価が海外と比べて相当安いです。この消費単価をどうやって上げていくか、まずはSDGsを徹底させること、地産地消、フードロス削減こういった地球環境からの取り組みといったことも必要になってきます。また、食は掛け算です。食×エンターテイメント、食×スポーツ。食というのは、食べるだけじゃないんだと。どのような空間、場面で食べるのか、誰と楽しく食べるかも食の重要なポイントです。栄養とかだけではなくて、やはりコミュニケーション、ファッション、文化として捉えていくことが必要です。そのためにも食の展示会、学会、イベントを誘致したり、食の国内外のネットワークを作っていく必要があります。食の人材育成も重要課題で、大阪のシェフを、海外の一流のシェフと交流させて、食の世界で大谷翔平を作っていこうと。海外の一流の舞台を体験させて、連れて帰る。日本のシェフの大半が調理師専門学校で学んでいますが、海外では、大学のMBAを取って経営マネジメントをしっかり行えるようなシェフの育成が積極的に行われています。そういう意味から考えますと、高等教育機関とも連携をとりまして、食の人材育成もやっぺいこうとしています。

次に文化芸術観光ですね、大阪に来られるインバウンド観光客に大阪の美術館、博物館、劇場、伝統芸能、建築などの基本情報を掲載するポータルサイトを 6 月にスタートしました。お客さんが来たときに、もうその場で、このエリアでどこに寺社仏閣があるのか、どこに美術館、博物館があるのか、どこでチケ

ットが買えるのか、すぐにそういうことにアクセスできるような、サイトを立ち上げてまして、これ何もサイトだけではなく、Instagramとか、若い世代のSNSの情報発信を使って、情報発信機能を強化しています。

次にスポーツですね。大阪は四季折々、スポーツを「観る」、「する」、「支える」コンテンツが豊富にあります。スポーツツーリズムは、世界に誇れる観光資源と思います。特に、ゼロカーボン社会、コロナ収束により強まったアウトドア指向の高まりという意味で、サイクリング、トレイルラン、登山、トレッキングなどアドベンチャーツーリズムは世界的に大きなブームになっています。奈良県はアドベンチャーツーリズムという点において、非常に質の高いコンテンツをお持ちだと思います。

次に「ラグジュアリー対策」です。2年前にサウジアラビアの富裕層の友人から、「大阪城の天守閣に1泊1000万円で泊まれないか」と言われたことがあります。世界の富裕層は、1泊100万円以上は当たり前の時代です。サービスの質を高めることにより、ラグジュアリー向けの商品をつくるのです。ラグジュアリー対策で必要になるのは、まず、空港、港湾などの受け入れ、ヘリポートの整備などの受け入れ環境整備、富裕層向けの商品造成、コンテンツ造成です。奈良県には、上質な文化体験、お祭り、観光施設などラグジュアリーが好む観光コンテンツが豊富にあります。

最も重要なのは人材の確保です。日本はラグジュアリー向けのコンシェルジュの人材が育っておりません。ラグジュアリー向けには、語学のみならず、日本の歴史、観光資源に精通して、ユーモアのセンス、機転が利く、レスポンスが早いなどの人材が求められます。2025年大阪・関西万博には、国内外から多くの富裕層が訪れる可能性があります。奈良県には、富裕層向けに歴史、文化、そして医療、美容、アンチエイジング、ヨガ、精進、修行などのコンテンツがたくさんあります。

大阪市域のエリアマネジメントですが、大阪市域というとミナミ、そして梅田、大阪駅のイメージが強かった。今、10のゾーニングをして、例えば、去年は船場、中之島、コリアンタウンというように、選択と集中で毎年2、3カ所、重点的にプロモーションを行うことにしています。私は奈良県がアピールするときは、39市町村全てをアピールするのではなく、エリア、テーマで重点的にPR・プロモーションを行うべきだと思います。

大阪・関西万博を見据え、SDGsの推進の一環として取り組んでいるのが、「日本みどりのプロジェクト」です。世界、日本では、みどりの里山が消え、生態系の危機、自然の危機と言われています。日本は世界第2位の森林比率を誇る世界有数の森林国です。生態系、多様性のベースになる里山は、地球温暖化、林業者の減少（1980年約40万人→2022年約2万人）などにより、崩壊、減少の危機にあります。森林、里山は、ゼロカーボン社会の実現、生態系の維持に寄与するのみならず、森林ヨガ、森林セラピーあるいはツーリズム、キャンプ、スイミング、フィッシング、昆虫採集、バードウォッチング、環境学習、登山、ウォーキング、バイク、ラフティング、スキーなど、多くの産業を作るわけです。また、「里山をつくる、育てる」は、2025年大阪・関西万博のテーマに適したものであり、2025年大阪・関西万博のシンボリックな存在が、「大屋根（木のリング）」であり、会場内には「静けさの森」があり、この森を活用していきたいと思っています。これらの活動を環境省、林野庁と連携しながら、産学官、オールジャパンとして設立されたのが、「日本みどりのプロジェクト」です。日本みどりのプロジェクトは、すでに11県の知事が参加いただいています。奈良県には世界に誇れる美しい里山、森林が豊富にあります。ぜひ奈良県はこの協議会に参加していただきたいと思っています。

次に留学生の受け入れですね。留学生をしっかりと受け入れることは、インバウンドの促進、将来の高度

人材の確保にも繋がります。今留学生の方々にSNSなどを活用して海外発信をさせていただいております。

また高齢者、障害者の受け入れですね。日本は、少子高齢化が進んでいますが、今後、インバウンドにおいても、少子高齢化への対応は重要な課題になります。私ども万博を見据えて、高齢者、障害者の方が車椅子でも快適に動けるようなルートづくり、何とか万博までにコースを最低でも10コース作りたいと思っています。また観光庁の心のバリアフリーの認定の研修も今行っています。

また、4年前からLGBTQの受け入れに力を入れています。SDGsの中でも、LGBTQの受け入れというのは、最大の課題です。富裕層の約3割がLGBTQといわれています。SDGsの推進、富裕層対策という観点から、来年LGBTQの世界の旅行会社を集めた大会「IGLTA」をアジアで初めて大阪で開きます。バルセロナとバンコクとの招致合戦に勝ち、万博の前の年という大義で開催が決まりました。私は、世界中のLGBTQの方が日本に来たら、安心・安全に移動できる。これをオールジャパンで作り上げていきたいと思っています。すでに北海道から沖縄までいろんな都市が一緒にやろうと、名乗りを上げてくれております。ぜひ、奈良県におかれましても、一緒にこういったLGBTQ、高齢者、障害者の受け入れなどもやれたらというふうに思います。

次にペットですね。今は7世帯に1世帯が猫、8世帯に1世帯が犬を飼っています。今や子供の数よりも多くなっています。今大阪では、SDGsの一環として、ペットの受け入れの強化を進めており、2025年大阪・関西万博におけるペット同伴入場、ペットと一緒に飲食施設、ホテル、観光施設を楽しめるルートづくりなどを計画的に進めています。

ナイトカルチャーですね、観光の消費単価を上げるためには、ナイトコンテンツを強化することは重要な課題であり、まさに大阪は「24時間観光都市」を目指しています。例えば、夜、8時以降楽しめるクラブからスナックからカラオケから飲食から、あるいは手品からいろんな楽しめるコンテンツをリストアップしたホテル冊子をつくっています。そしてまた、美術館、博物館、道頓堀の水門の閉門時間の延長などについて、今働きかけをしております、できるだけ遅い時間まで楽しんでいただけるコンテンツづくりを行っています。例えば、美術館は富裕層向けに特別のコースを使ったり、ナイトクルーズの営業時間を延長していただいたり、様々な商品企画、造成を行っています。

2025年大阪・関西万博は後程、博覧会協会の皆様から、詳細な説明があると思いますが、2025年大阪・関西万博は、①2023年コロナが明けて、本格的に人流、物流が戻る、②東京オリンピックでコロナのために十分にできなかった海外からの受け入れを本格的にできる、まさに日本の魅力を世界に発信できる、そういう場になると思っています。

また今、世界が分断、対立と言われている中、やはりこの大阪・関西万博を通して、世界に協調、共生、平和ということをしっかり発信していく、そういう場にならなくちゃいけないと思っておりますし、特に日本の若い世代に、未来に夢が描けるような展望を示す、そういう大事な年になるかなというふうに思っています。

2025年大阪・関西万博は約2800万人、国内外から人が来られると想定していますが、私は万博というのは、この開催の6ヶ月だけではなく、2025年大阪・関西万博を準備するプロセスで、観光、インバウンド、日本の魅力発信、海外ビジネスの誘致など多くのビジネスのチャンスがあります。また開催後のレガシーもこの準備のプロセスで計画していく必要があります。万博は「受け身」ではなく、いかに「主体的に」活かすかが重要です。本当に先ほど知事からお話がありましたが、様々コミットできるところはいつ

ばいあると思います。私はぜひ、2030年、奈良県がどのように国際的な立ち位置になっていくのか、万博という機会をどのように活用していくのか、そういうふうな目線で万博というものを位置付け、検討していただきたいと思います。

最後に、「IR」について説明しておきたいと思います。IRについては、先日、政府のIR区域認定をいただき、2030年多分開業になると思いますが、今準備を進めております。場所は大阪の夢洲というところでございます。この第1期と書いたところで行います。私ども約2000万人の方を毎年呼ぼうと、そのうち1400万人が日本人、600万人がインバウンド、外国人です。そして600万人のインバウンドのうち、かなりは富裕層が占めるということを想定いたしております。施設はこのように国際会議場、展示場、魅力増進施設、実はここに、日本の伝統文化、伝統的なものづくり、茶道、華道、香道或いはこの中に、日本の食、これをふんだんに関西の食を出そうということを考えておりまして、ぜひここに、今から奈良県の様々な歴史文化資源をここでしっかり発信できるということも入れていきたいなというふうに思います。

また下にいきましてこのエンターテインメント施設は約3500席あるんですけども、シルクドソレイユみたいにいろんなイベントを行うことになっています。またこの飲食物販サービス施設も一流のブランドのものもありますが、様々な物販から飲食の施設があります。この施設というのは、やっぱり関西の真ん中であって、関西2府4県の魅力を発信するということに大きなウエイトを置いておりまして、ぜひこういうものもIR施設を上手く活用していただいて、奈良県の魅力発信ということにも活かしていただければというふうに思っております。

最後に、まとめたのはこれです。大阪にはない奈良観光のポテンシャル、コロナの後、私は先ほど分散であるとか、心の安らぎであるとか、リラクゼーションとか、お客さん、消費者の皆さんの志向も変わって参りました。その中でやはり私も感じるのはいまからラグジュアリー向けには、歴史文化伝統が非常に重要になってくるという中、私は奈良県というのは、非常に大きなチャンスが来たなというふうに思っております。

奈良県とのご縁では、長年、葛城市の観光戦略アドバイザー会議の委員長しております。葛城市は、相撲の発祥の地であり、日本有数の相撲の体験、展示施設である「相撲館」もあります。桜井市さんも相撲にご縁があると聞いているのですが、この相撲は2025年大阪・関西万博でも発信できる大きなチャンスだろうと思っています。奈良県には、世界遺産が3カ所あり、お酒などの食文化、吉野、十津川、川上村などの歴史有る森林、お祭り、寺社仏閣など、質・量ともに高いレベルの観光資源があります。宿泊施設の充実、交通アクセス、二次交通などの課題がありますが、古民家、寺社仏閣などを活用すれば、富裕層向けの商品はたくさんつくれると思います。また、ナイトエンターテインメント、早朝観光を取り込むことにより、消費額を高める、いわゆる「量から質への転換」は十分可能かと思えます。

そして奈良は、特に奈良市は大阪、京都、名古屋のハブです。南部へのゲートウェイです。しっかりとドイツのフランクフルト的な役割をしていく。そういう役割というものが奈良の場合は必要かなというふうに思います。

今後の課題として、マーケティングとデータ分析をしていくこと、それによってしっかりと、住民の方に、こういうことをやってこれだけの効果があった。これはここが足りなかった、検証しながら、みんなを巻き込んで、さあ一緒にやっ行ってこうぜと。そのためには、しっかりと見える化すること、データを分析すること、これは必要になると思います。

次に、伝統と伝承です。これは、これから私は今後の日本の観光の最も重要なキーワードと想っています。ぜひ、すべての奈良の観光資源の歴史文化をしっかりと検証し、語っていく。しかもこれを多言語で世界に語っていく、こういうことが必要なのかと思います。

また、アドベンチャーツーリズム、トレッキングであるとか、山岳信仰、サイクリング、温泉。川上村、十津川村、県南部には魅力あるパワースポットがいっぱいあります。

これから 2030 年を見据えて、知事がこういう形で皆さんに号令をかけて集まって、これが新しい奈良県のスタートになるべく、私ども大阪観光局も、吉村知事の指示を受けて、今後、奈良県市町村の皆様としっかり連携をとり、2025 年大阪・関西万博を見据え、お互いに Win-Win の関係になり、日本の観光立国、関西の活性化に貢献していきたいと思っています。

皆さん、今後ともぜひ連携、協力して、観光、関西を盛り上げていきたいと思っています。今日はご清聴ありがとうございました。

#### 【司会】

溝畑様、ありがとうございました。せっかくの機会でございますので、溝畑先生へのご質問の時間を設けさせていただきたいと思っています。ご質問いただく方挙手いただきましたら係員がマイクをお届けいたしますので、挙手の方どうぞお願いいたします。松井市長、お願いします。

#### 【桜井市長】

開催地の桜井市長の松井でございます。今、溝畑先生にはもう素晴らしいお話を聞かせていただいて、これから山下新知事のもとでしっかり頑張っていこうと、そのように思っておりますが、先生の話の中で一つ、僕が疑問に思ったことがあります。やはり歴史と伝統をしっかりと守っていこう、そして先ほど相撲の話もお話をさせていただきました。葛城市と香芝市と桜井市で、まほろば相撲連絡協議会も作って、今頑張らせていただいております。その中で一つだけ気になりましたが、大阪と違って奈良県は、1500 年の歴史があるというふうに先生は 2 回か 3 回おっしゃいました。もっと長い歴史やろうと僕は思ったんですが、1500 年とおっしゃるのは何を根拠におっしゃってるのか、ちょっと聞かせていただきたいなと思います。

#### 【溝畑理事長】

すいません 1500 年っていうのは、ちょうど大阪に難波宮がですね、できて 1500 年と。そのころから、歴史を調べますとね。やっぱこの奈良と大阪っていうところがちょうど人流・物流のルートになってたということから、大体 1500 年と言ってるんですけど、すいません正しいかどうかは、もし間違っていたら修正します。

#### 【桜井市長】

よろしいでしょうか。ちょうどまさにその通りで、大和王権の発祥が 10 代崇神天皇、11 代垂仁天皇、そして 12 代景行天皇。で、12 代の景行天皇の前で天覧相撲を行った、それが相撲の発祥の地。それは、ちょうど今おっしゃってた、いわゆる 300 年ほど前だから、1800 年以上の歴史があるというのが、奈良県でございますので、すいませんこれはこれからよろしくお願いたしたいと思っています。

【溝畑理事長】

了解です。

【桜井市長】

森川村長といつもそれで議論しておりますので。

【溝畑理事長】

1800年の歴史という認識のもと、皆様としっかり連携していきたいと思っておりますので、よろしくお願ひします。

【桜井市長】

よろしくお願ひします。

【司会】

先生ありがとうございます。もうひとかたをお受けしてもよろしいでしょうか。

並河市長お願ひいたします。

【天理市長】

溝畑先生貴重なお話ありがとうございます。天理市長の並河と申します。もともと外務省で、アラビア語専攻でございましたので、非常に中東の話なども関心深く聞かせていただいたんですけども。都道府県の境が観光にないとおっしゃっていたのは本当にその通りかなと思っております、私今日のテーマに向けてですね、うちも外国人の職員がおりますので。自分が海外旅行に行った気分になって、今の奈良の情報発信の状況をちょっと分析しようじゃないかということで、トリップアドバイザーですか、ジャパンガイドさんですか。必要な情報にたどり着けるか見てみました。やはり特にテーマ別で見ていった時に、何とかその伝統文化のところでは引かかってくるんですけども、それでもですね、木曾とか、あるいはその信楽さんとかの後塵を拝しておると。伝統文化以外の自然とかアウトドアに関しては全然出てこない。そういうそのテーマ別の部分で、もっと強化が必要だというときに、大阪さんと一緒に組んでいかないと、アウトリーチの力が、奈良県単体ではやっぱり弱いと思いますし、ましてやその市町村がバラバラにですね、自分のホームページなどを強化していても、我々がイタリアだったりフランスに行く時にいきなりどっかの州のホームページを見たり、ましてやその都道府県のホームページ見るようなことはないと思うんです。

ただ一方でそのテーマ別というところではいけば、本市もスポーツツーリズムを今やり始めようとしていまして、相撲以外にも柔道体験だったり、そういうのはなかなかできないと思います。

その神社仏閣もただ参拝じゃなくてですね、みそぎ体験をさせてもいいとおっしゃっていただいたり、篝火の中で雅楽をやってもいいとおっしゃっているようなところも結構あるんですね。

ですから、大阪に滞在される皆さんにとっても魅力的なコンテンツと一緒に作っていけば、これから大

阪さんも一緒にですね、奈良のいろんな各地の魅力を発信いただけるということで今日はよろしゅうございましょうか。質問というよりお願いでございます。

#### 【溝畑理事長】

まず私は、天理はですね、高校の時に野球してたんで、当時天理からマックス佐藤とか言ってですね、強力な左バッターで早稲田行った選手がいてですね。やっぱ天理というとラグビーと、それから野球が強いというんで、ラグビーと野球だけでも十分全国ブランドになられていてですね。そういう意味ではスポーツは、非常に私は強い影響力を持ってるなというふうに思ってます。

さっき私連携の必要を感じているという理由というところで、ぜひですね、打ち出す時に、もう何か、大阪と奈良という言い方ではなくて、県境という意識のない、奈良県の市町村と大阪の市町村のテーマ、ストーリーでルートをつくっていくべきだと思います。

例えば今考えておりますのは、万博にみんなで、自転車で行こうぜと。そういうことを今、実は全国の自治体の皆さんに声かけておましてね。そういう時に、例えば今、ナショナルルートというのがありましてね、そこをぐるっと大阪に結ぶルートっていう中で、奈良県も通っていきますのでね、そういうルートという中でものを見ていったほうがいいのかと。

野球ブームになっています。最近、韓国の小学生が大阪に来た時に、野球の話になったんですね。そうすれば強い学校を見に行きたいという話になって、たまたまオリックスの太田君っていうのは天理高校出身ですね、お父さんがオリックスバファローズのスタッフで。そういう時に天理の野球部に体験入部できないのかとかですね。もうこれからそういった変な県境を意識するよりは、お互いそういうところで常に連携を取りながら、メニューを出しあって、できれば私どもこれを機に、大阪府域の市町村と、奈良県の皆さん市町村一緒になってですね、共同作業していくと。このエリアを人で埋めようぜというようですね、そんなイメージでちょっと商品テーマごとにつくれないかなと思っておまして、先ほども知事さんにもそんなお話を差し上げましたよね。テーマごとにどんどん、もう相撲もあり、スポーツもあり、サイクリングもあり、あるいは癒しもあり、あるいはこの修行もあり、あと季節ごとに花もありますよね。花、フラワーリズム、特に日本の場合は、春・夏・秋・冬の花の変化がすごい綺麗なんですね。紅葉も含めて、私はそこもですね、十分とり込めるんじゃないかと思います。あとトレイルランとコースもですね、多分おそらくずっと昔、竹内街道があったように、昔人が行き来した道があるわけですから、そういうものを通していろんなルートができると思うんで。これを機にそういうものを掘り起こしもしていきたいなというふうに思います。

#### 【司会】

先生ありがとうございました。大変貴重なお話いただきましてありがとうございました。まだまだお話を伺いたいところなんですけれども、ちょっと時間の都合もございしますので、質問はこちらまでとさせていただきます。改めまして先生に大きな拍手をお願いいたします。

続きまして、2025年日本国際博覧会大阪・関西万博奈良県の取り組みにつきまして、知事公室次長の辻からご説明をいたします。

#### 【辻知事公室次長】

皆さんこんにちは。奈良県知事公室次長の辻と申します。よろしくお願ひいたします。溝畑理事長さんの力強いお話の後で大変恐縮ですが、私の方からは、大阪・関西万博に向けての奈良県の取り組みをご紹介させていただきたいと思ひます。後ろに、河瀬監督のお話を控えておりますので手短かにさせていただきます。お手元の資料2をご覧ください。

1 ページ目、大阪・関西万博の概要ですが、溝畑理事長さんの資料にもございましたので省略させていただきます。

2 ページをご覧ください。こちらは会場のレイアウトです。河瀬監督の担当されておられますパビリオンは会場中央に、それから奈良県が関西の府県と共同で出展いたします関西パビリオンは会場右上にございます。会場内には大催事場や、屋外イベント広場など、自治体などが催事を行える施設が6ヶ所ございます。

3 ページをご覧ください。次に奈良県の行催事に関する取り組みの方向性についてです。会期前にはイベントを開催するなど、万博の認知度向上に組みたいと考えております。会期中には万博会場内で催事を実施し、奈良県の魅力をPRして誘客促進につなげます。また、県内でもタイアップイベントを開催するなど、万博を盛り上げていきたいと考えております。奈良県としては今後万博に向けて積極的に取り組んでいくため、来週7月18日付けで、万博推進室が設置されます。

続きまして4ページ5ページには取り組み例を掲載しておりますが、また後程ご覧ください。

6 ページをご覧ください。最後に、市町村の皆様へのお願ひでございます。まず、機運醸成に関しましては、各市町村でイベントなどを実施する際に、万博ロゴや公式キャラクターのミャクミャクなどをご活用いただければと思ひます。先日河瀬監督が山下知事を訪問された際に、ミャクミャクの着ぐるみと一緒にお越しいただきましたが、1度見るとなかなか忘れられないインパクトのある着ぐるみです。催事への協力に関しましては、会期前には万博のテーマやSDGsに関するイベントなどの開催についてご検討をお願いいたします。また会期中にはまだ詳細が決まっておりますが、万博会場内で奈良県が実施する催事や、また県内で実施する連動イベントなどへの参画について、今後ご案内をさせていただきますので、ご検討いただければと思ひます。教育プログラムに関しましては万博のテーマを通じて、SDGsへの理解を深める、小中学生向けの教育プログラムの活用をご検討いただければと思ひます。

7 ページに、ロゴマーク等の仕様や教育プログラムについて掲載しておりますが、詳細につきましては、また万博推進室へお問い合わせいただければと思ひます。

今後、関西の府県市とも連携しながら、奈良県全体で万博を盛り上げていきたいと思ひますので、ぜひ市町村の皆様のご協力をお願いいたします。説明は以上です。本日、お時間いただきましてありがとうございました。

#### 【司会】

続きまして、2025年日本国際博覧会テーマ事業プロデューサー河瀬直美様と、公益社団法人2025年日本国際博覧会協会副事務総長高科淳様より、2025年日本国際博覧会（大阪・関西万博）のご紹介及びご挨拶をいただきます。それでは河瀬様、高科様、よろしくお願ひいたします。

#### 【高科副事務総長】

博覧会協会高科でございます。本日は貴重なお時間いただきましてありがとうございます。まず私か

ら、河瀬さんの話の前座として最新の状況を簡単にご紹介したいと思います。投影はございませんが、お手元に資料があるかと思しますので、そちらをおめくりください。

4月13日に起工式を執り行いました。その後、建設工事が始まっています。昨年と最近の写真をつけていますが、今は、真ん中の静けさの森あたりの地盤のところは少しこんもりと膨らんできています。リングの建設が始まり、クレーンがリング状に立ち並んでいるというような状況が見て取れると思います。あと、この地下鉄の工事の状況もありますが、線路が海底で繋がりまして、地下鉄の駅も土工の分は大体できているというようなところまでできています。

全国でのいろんな盛り上げもやっていて、ライセンスグッズの販売も開始しております。このバッチは900円です。ぬいぐるみは3960円ですが、すごい人気で今は抽選販売させていただいている状況です。ちなみにミyakミyakは、「ミyakミyakの着ぐるみ」じゃなくてミyakミyakですので、よろしくお願いいたします。

それから最近入場券の価格を発表させていただきました。7500円は高いじゃないかっていう報道も見受けられますけれども、ご覧いただければわかると思いますが、特にお子さまの料金、前売りで買うと、1000円ぐらいで買えるとか、或いは夏休み、毎日行けるというチケットだとお子さま3000円ということで、大変子どもにやさしい価格になっていると思います。ぜひご活用いただければと思います。中身の準備も始まっています、このテーマ事業というのは万博の顔になる目玉の事業ですが、そこに河瀬プロデューサーにも参画いただき、今準備を進めていただいています。この後河瀬さんから、その準備の状況について説明していただきますので、よろしくお願いいたします。

#### 【河瀬テーマ事業プロデューサー】

39市町村の首長の皆様がここにおそろいになっていらっしゃるという、そういう光景を、こんな壇上から、拝ませてください。こと自体が恐縮で、身の引き締まる想いでございます。私自身、奈良で生まれ育って、そして奈良で映画を作り続けて、今年54歳になりました。奈良市、当時は国立病院、現在市立病院で生まれて、そして奈良市の一条高校を卒業するまでずっと半径2キロの範囲で、生きていました。ある日、映画という神様が私のもとにおりてきたんだと思います。映画を撮らせていただく役割を、この人生でいただいて、そして私自身の映画は劇場公開をしているのが13本、そのうち10本が奈良県下で撮影させていただいております。それから13本中の10本がカンヌ国際映画祭に選出され、いくつかは賞をいただいております。26年前初めて長編劇映画を撮ったのが、当時は西吉野村、今は五條市になっております。ここで撮った映画『萌の朱雀』は世界で、これから一番期待される新人に贈る賞をいただきました。何かこう、小さな小さな私のような存在が映画というものを通して、世界にアピールできた、奈良の美しい風景、そして人の営み、でも、そこは過疎が進み、33世帯あった集落にはもう10世帯もありません。そういう現状を抱えています。

その10年後に奈良市で『殞の森』という作品を撮り、カンヌ映画祭でグランプリいただきました。そのときを境に、「なら国際映画祭」を立ち上げました。映画というものが国境を越えるんだということ、自分自身が実感した感覚を、奈良のこれからの世代の人たちに伝えていきたいと思いました。この映画祭は2010年に立ち上がったのでもう13年目になります。私たちの映画祭は2年に1度やっていて、1年目に開催した映画祭でグランプリを受賞した監督に、翌年映画を奈良県下で創ってもらおうという取り組みを進めてきました。そうして、何と8本の映画がすでに県下の市町村の皆様に協力いただいて完成し

ています。2年ほど前には、それを協議会という形で繋ぎました。各自治体だけではなく、皆さんが手を繋いで、そしてそれを世界に発信していきたいと想っています。その取り組みのひとつとして今年コロナがあけてパリでこれらの作品の上映会を行いたいなど準備を進めている最中です。このように、私自身が映画を通して、世界の皆さんと繋がっていったことを、この度、大阪・関西万博というところで、確実に大きな種として、それを土に植え、芽を出す、それがまた次の世代の人たちに繋がっていったらいいなというふうに想っています。

お手元でご覧いただいているかもしれないですが、先日、十津川村で廃校になった中学校を、河瀬館として移築するというプロジェクトにおいて、この校舎を解体するという作業に入る前の安全祈願祭を開催させていただきました。地域の人たちはたくさん、この学び舎に想いがあります。でも冒頭にお伝えしたように、過疎が進み、子供たちがいなくなり、廃校となりました。万博は世界各国が、その未来に対して、どんどんどんどん発展していこうという、そういうワクワクする感覚をもたらすものであるとは想います。でもEXPO70から50年経った今、人間が、一番偉くて賢くて、そして地球環境をないがしろにして進んでいったのかどうか、そういう事も考えなければいけないと想うのです。自然環境の破壊や他の生きものが絶滅してゆくカタチが本当に正しいのかどうか、その命を脅かすこと、ひいては戦争というような悲劇が勃発していくこと。コロナを経て他者を貶めるような感覚がまん延し、SNSなどのメディアの助長というか、煽りみたいなものも手伝って目の前の誰かを信用できなくなっている。けれども例えば今回移築する予定の中学校がある十津川村では「助け合うわだ」という精神が息づいて、人々が支え合って暮らしています。この校舎は地域の人々が自分たちの山で育てた木を切って建てたものです。地域の子供たちのために、彼らが大きな大木になるような願いを込めて建てられたんですね。そんな大切な校舎が残っている。それに会ったときに、私はこの万博会場に河瀬館として校舎を移築する、移築って言うてしまうとそのまま持っていかのかと想われがちなんですけどそうじゃなくって、解体をして、一本一本材を取って、そしてそれをもう一度再構築しようと想いました。もう使わなくなったものの中には価値がないというふうに想われがちですけども、とんでもない。そこにはこれを育ててくれた先人たちの素晴らしい記憶があります。私は万博会場に、この「記憶」を移築したいと想っています。移築された記憶はきっと、新しい世代の子供たちも含めた、私たち大人がですね、オール、もちろん奈良でもありますし、オールジャパンで、このまれな、精神性、哲学を持った「助け合うわだ」に代表される自分だけは助かったらええわじゃなくって、手を差し伸べるその気持ち、おもてなしの心、そういうものが世界に伝わって行って、そして、ここが終着点じゃなくって、ここから始まる日本というものがもとより持っている心の豊かさみたいなものが伝わって行けるといいなと想っています。

少し万博とは外れますが、ここでこれまでに私が「なら国際映画祭」を通して、奈良県下でプロデュースした8本の映画に関してお話させて下さい。これまでに奈良市、橿原、十津川、五條、東吉野、天理、御所、川上の8市町村で撮影させていただき、すでにネットワーク協議会が立ち上がっております。今年の初冬には、三郷町にてロケが始まります。この後、39市町村のどこかにも、映画を通して、奈良を発信していきたいというお願いに上がるかもしれませんが、オール奈良でやっていきたいと想いますので、どうぞよろしくお願いします。

私自身は本当にまだまだ稚拙で、奈良を拠点に映画監督を女性でやり続けるということは、イバラの道です。でもそんなイバラの道をかき分けていく時に支えてくださった方がたくさんいらっしゃいます。これからも支えて下さる皆様と想いを共にしながらこの万博で形を変えて発信していきたいと想います

ので、本当にどうぞよろしくお願ひします。

#### 【司会】

ありがとうございました。それでは最後に、本日のサミットにつきまして、山下知事より総括をお願いしたいと思います。

#### 【山下知事】

本日ご参加いただきました、39 市町村の首長をはじめとする代表の皆様、本当に長時間のサミットお疲れ様でございました。

第一部の溝畑先生のお話、本当に刺激的でありましてですね、もう私も聞きながらワクワクしておった次第でございます。これから大阪、奈良ともう府県境を意識せずですね、もう一体となって Win-Win の関係を築いてですね、観光を初めとする様々な分野で連携協力をしていくことですね、両府県が発展していくのではないかとというふうに確信をした日が今日でございます。

溝畑先生のお話で印象的でしたのは、やっぱり私はですね、本当に奈良県がもう 1800 年受け継いできたこの歴史文化伝統、もうこれ本当にすばらしいものがあるわけですが、やはり今県の人口がどんどん減って行って、特に中山間地の町村ではもう減って行ってという中で、これに歯止めをかけるのはですね、やはりこれは交流人口を増やす、交流人口を増やすためにキーワードは、やっぱり観光の振興だと思います。そのことでいろんな人が、この奈良県、そしてその特に中山間地を訪れることですね、きっとじゃあこんなすばらしいとこだったら住んでみようというふうに思う人も必ず増えてくると思います。そういう意味で、私たちが奈良県に暮らす私達にとって本当に当たり前のものが、外国の人からしたら全然当たり前じゃないすごい魅力を持っているものであるはずでございますので、やっぱりそうしたものをですね、本当に私たちが気づかない魅力をですね、どう外国の人にアピールしていくのか。そしてまた、それをですね、やっぱり私はお金に換えていくっていうことにあんまり躊躇したら駄目だと思うんです。やっぱりお金に換えて行って、その地域の経済が回っていかないと、やっぱり持続可能性というのが保たれませんので、やっぱり持続可能性を確保するのはやっぱり経済です。そういう意味ですね、お金を稼ぐということに、もうちょっと、食欲になってもいいんじゃないかと私は実は思っております。私の嫌いな言葉に大仏商法という言葉があります。これも死語になってると思いますが、大仏があるんで、何もしなくてもお客さんが来てくれる。そういう時代でないことはもうここにいらっしゃる皆さんは、十分認識されていると思いますので、もう今日の機会にですね、やっぱりこの奈良県の観光が変わっていくと、私はそんな期待を抱かせるような、溝畑先生のお話ではなかったかと思ひます。

それとあと今日急遽私の方から河瀬監督にお願いをして、わざわざ日程を変更して、この会に参加していただいたんですけれども。本当に河瀬監督は誰もが知る有名な映画監督で、私は奈良県民で一番有名人ではないかと思ひているんですけれども。その河瀬監督がですね、本当にそれこそ、東京に住んだり、あるいはカンヌに住んだりして、もっと世界で羽ばたける、それだけの才能をお持ちの方だと思いますけれども、その河瀬監督がこの奈良に住んで、奈良にこだわってですね、奈良のことを世界に発信してくださっているというその姿勢にですね、本当に知事に就任する前から感銘を受けておまして、ぜひですね、この河瀬監督の持つ発信力、これをですね、奈良県そして奈良県の 39 の市町村も最大限活用させていただいてですね、本当に河瀬監督の発信力に乗っかって、奈良県の魅力をですね、世界に発信してい

ければなど。そして、すでにNARActiveによるネットワークがすでにございますので、そっちがもう先行してはいますが、県もそれにですね、後追いで乗っからせてもらいまして、本当に河瀬監督におんぶにだっこで、県の魅力を発信していけたらと思っておりますので、そういう意味でも転換点となる、今日はサミットではなかったかと思えます。

この後、懇親会の方もございます。溝畑理事長も、それから河瀬監督も、高科副事務総長も、皆さん懇親会の方にも、参加していただきますので、またそこですね、ぜひ今日のゲストの方をつかまえていただいて、それぞれの市町村を売り込んでいただけたらと思っております、今日のサミットを使い倒していただきますようお願いを申し上げてまして私の総括とさせていただきます。ありがとうございました。

#### 【司会】

知事、ありがとうございました。それでは、これをもちまして令和5年度第1回奈良県市町村長サミットを終了いたします。